

現代日本語の「たしかに」
—「なるほど」と「たぶん」との比較から—

望月 雪絵
(欧米第一課程 英語専攻)

キーワード：日本語，陳述副詞，用法変化，性差

0. はじめに

原田(2010)によると「たしかに」が相槌として単独で用いられる用法が特に若年層の間で増えている。その単独用法についてコーパスを用い「なるほど」と「たぶん」と「たしかに」を比較した。結果、「たしかに」の単独用法が増加している証拠に加え、その要因としては性差や会話のジャンルが関わっていることがわかった。なお本稿における例文番号、図表番号、下線は特に断りのない限り筆者によるものである。

1. 先行研究とその問題点

原田(2010)は大学生による日常会話をデータとして、「現代東京の話しことば」の共時態における「たしかに」の用法（特に単独でターン¹を構成する用法を持つもの）を会話分析の手法により記述・分析し、用法変化についても分析を行っている。しかし用法変化についての考察の過程で原田自身の作った例が多く、客観性に欠ける部分がある。ゆえに話し言葉をデータとして、原田(2010)が述べている「たしかに」の用法変化について客観的に立証する必要がある。さらに先行研究では触れられていない、年齢差や性差といった観点からも分析を行い、その用法変化の要因について考察することも必要である。

2. 仮説

2.1. 単独用法

先行研究で得られた仮説をまとめる。なお原田(2010)の三種類の独立用法の分類と区別するため、以下では「単独用法」という用語を用いる。

本稿における単独用法の定義を以下に示す。実際の用例は(1)のようなものである。

- ・ 同じ文中に被修飾語がなく、単独でターンを構成する
- ・ social action として成り立つ、独立した発話である
- ・ 相手の発話を受け入れる token agreement である

(1) M09「その前に、なんか、り、料金がやばいことになる<笑い>」

M10「確かに。」

(親しい同性友人同士(男女)の雑談 5-1-M09-M10)

¹ Sacks, Schegloff & Jefferson(1974)によって明らかにされた the organization of turn-taking for conversation(会話における順番取りのシステム)における turn(ターン)のことを指す。

2.2. 単独用法の増加とその要因

「たしかに」の用法は変化していると思われる。陳述副詞としての用法に加えて単独で感動詞のように用いられることが増えている。特に原田(2010)が述べているように、若い世代で変化が広がっているものと考えられる。さらに、南(1993)や竹内(1973)では、より文の中心に近いほどことがらの概念的叙述、そこから前後の外側になるほど話し手の態度の表明の性格が強くなると述べられている。この話し手の態度を表すのが陳述副詞である。そこで筆者は単独で用いられる要因として、原田(2010)が述べた語用論的強化とコミュニケーションの効率化の他に、南(1993)などが述べているように陳述副詞が文構造の外側にあることが考えられるという仮説を立てた。

3. 調査方法

3.1. 調査方法

コーパスを用いて用例を抽出し、それらを分析する。現代日本語の話し言葉を対象とするので、『BTSJ による日本語話し言葉コーパス(トランスクリプト・音声) 2011 年版』(以下『BTSJ コーパス』)と『JPNCorpus』/『PacRim』を使用した。なお紙幅の都合上、本稿では『BTSJ コーパス』の特徴とその結果についてのみ述べる。

3.1.1. 『BTSJ による日本語話し言葉コーパス(トランスクリプト・音声) 2011 年版』

宇佐美まゆみ研究室が公開しているコーパス。294 会話(約 66 時間)のトランスクリプトが収められており、そのうち 136 会話(約 20 時間)に音声が付いている。話者の年齢や性別・国籍などの情報が得られるデータシートも付いている。ほとんどが 20 代の学生であるが、中には 30~40 代の社会人のデータもある。雑談の他に討論や電話の会話も収録されている。このコーパスの中には、日本語母語話者ではない人の会話も含まれているが、今回の研究には用いず、それらを除いた 237 会話を用いる。

3.2. 調査内容

3.2.1. 調査内容

現代日本語の話し言葉における「たしかに」の用法の変化とその要因を探る。具体的には「たしかに」が陳述副詞の用法から、単独で用いられる感動詞化した用法への変化が若い世代で進んでいるかを探る。

3.2.2. 予備調査

はじめに予備調査として『BTSJ コーパス』の性質を調べたところ、ほとんどの話者が 20 代の学生であることがわかった。このため変化において一番重要なファクターであると仮定していた年齢・年代を分析するのに十分な量の用例がないことが問題としてあげられた。そこで、「たしかに」以外の他の陳述副詞との比較をすることによって「たしかに」の単独用法の証拠と要因を探ることとした。調査結果として、単独度、修飾方向と呼応、定型化、修飾語と被修飾語との距離といった文法的、日本語学的側面からこれらを「たし

かに」の単独用法が増えている証拠とした。そしてどのような層がどのような場面で単独用法を用いているのかを単独度と会話のジャンル、会話のジャンルと性別、異性間・同性間での単独度の割合、単独度と性別、年齢、年代といった社会言語学的側面から分析し、それらを単独用法の要因とした。本稿では紙幅の都合上、単独用法の増加の証拠として単独度を、要因として会話のジャンルと性別を取り上げる。

4. 調査結果

4.1. 『BTSJ コーパス』の調査結果

4.1.1. 単独度

まず単独用法の一つ目の証拠として、単独度について述べる。三つの陳述副詞について用例を見て行くうちに単独の度合いが強いものから、修飾語としての機能が強いものまであることに気づいた。そこでそれぞれ単独の度合いごとに用例を以下のように手作業で振り分けた。3C に向かうほど単独の度合いが高い。なお感動詞と終助詞が組み合わさっているものに関しては、単独度 3A に分類する。

1：修飾語として機能しているもの / 1.5：修飾・被修飾の関係が曖昧 / 2A：被修飾語が内容語ではないもの / 2B：文の中には存在しているが被修飾語がないもの / 3A：感動詞がつくもの / 3B：終助詞がつくもの / 3C：その陳述副詞のみで用いられているもの

(2) IF10「確かに英語の勉強にはなるわ。」(初対面と友人同士の女性の雑談 35-2-IF09-IF10 L389-344) 1

(3) BM04「あ、でも確かにでも、その、今、1人身っていうか、(うん)別に自分のことだけ考えてるんだったら、職場環境とかあんま関係ないけど」

(友人同士男女(雑談、討論) 227-16-BM04-F08-touron L24-23) 1.5

(1)再掲 M10「確かに。」(親しい同性友人同士(男女)の雑談 5-1-M09-M10 L647-608) 3C

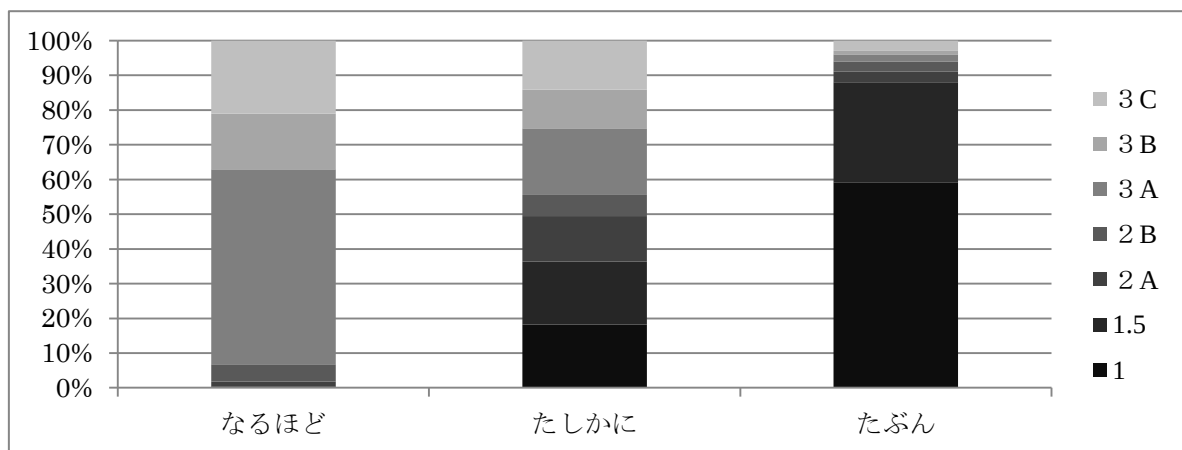


図 1: 各陳述副詞の単独度ごとの用例数の割合

表 1: 各陳述副詞の単独度ごとの用例数

	1	1.5	2 A	2 B	3 A	3 B	3 C
なるほど	1 (0.4%)	0 (0%)	4 (1.4%)	15 (5%)	161(56%)	45 (16%)	59 (21%)
たしかに	59 (18%)	59 (18%)	42 (13%)	20 (6%)	61 (19%)	35 (11%)	46 (14%)
たぶん	394(59%)	192(29%)	18 (3%)	17 (3%)	16 (2%)	9 (1%)	19 (3%)

「なるほど」は単独度が高い 3A～3C がほとんどを占める。「なるほど」自体の修飾の意味合いが弱く、修飾のターゲットが曖昧であることがわかる。「たぶん」は単独度が低い 1 がほとんどを占める。「たぶん」自体の修飾の意味合いが強く、その意味が強く残っていることがわかる。「たしかに」に関しては単独度 1 が一番多いが、単独度 3A～3C を併せると 142 例と 1 を上回る。このことから「なるほど」と「たぶん」の間であると考えられる。さらに全体に占める 1.5 の用例数の割合においても「たぶん」(29%)、「たしかに」(18%)、「なるほど」(0%)の順で多いことがわかった。

4.1.2. 単独度と会話のジャンル

単独用法の要因の一つとして、単独度と会話のジャンルとの関係を分析した。『BTSJ コーパス』はそれぞれの会話がジャンルごとに分類されており、そのうち 19 種類の会話を用いた。それらを「フォーマルな会話」と「インフォーマルな会話」に分け、その際筆者が「フォーマルな会話」には(a)~(i)、「インフォーマルな会話」には(j)~(s)の記号を付けた。分類の基準として、敬語を用いる会話を「フォーマルな会話」、用いない会話を「インフォーマルな会話」とした。なお、女性同士の断りの電話会話についてはベースとなる話者の立場から見て、対先輩・対後輩・対同級生というジャンル分けがなされていた。筆者がこれを「フォーマル・インフォーマル」の基準に合わせて、(a) 女性同士の断りの電話会話 <対先輩>と(k) 女性同士の断りの電話会話 <対後輩・対同級生>に分けた。以下に会話のジャンルを提示する。

「フォーマルな会話」

- (a) 女性同士の断りの電話会話 <対先輩>²
- (b) 初対面女性雑談（母語）
- (c) 初対面女性ベース雑談その 1（母語）
- (d) 初対面男性ベース雑談（性差・年齢差）
- (e) 初対面同性同士雑談（男女）
- (f) 論文指導
- (g) 初対面と友人同士の女性の雑談（初対面）

「インフォーマルな会話」

- (j) 謝罪の会話
- (k) 女性同士の断りの電話会話 <対後輩・対同級生>
- (l) 同性同士の依頼を含む電話会話
- (m) 初対面と友人同士の女性の雑談（友人）
- (n) 親しい同性友人同士（男女）の雑談
- (o) 友人同士の女性の雑談
- (p) 友人同士女性の誘い

²この括弧は筆者が設定した。その他の括弧は『BTSJ コーパス』の会話タイトルで用いられているものである。

- (h) 初対面女性ベース雑談その2 (母語) (q) 友人同士男女 (雑談・討論) 討論
 (i) 初対面女性討論 (r) 友人同士男女 (雑談・討論) 雑談
 (s) 友人同士男女間討論

4.1.3. 会話のジャンルと性別

次に性別と会話のジャンルの単独度の関係を「たしかに」、「なるほど」、「たぶん」の順で以下の表に示す。

表 2: 「たしかに」の「フォーマル・インフォーマルな会話」の合計数

女性	単独度 1~2A	単独度 3A~3C	合計
フォーマルな会話	49 (57%)	37 (43%)	86 (53%)
インフォーマルな会話	37 (49%)	39 (51%)	76 (47%)
男性	単独度 1~2A	単独度 3A~3C	合計
フォーマルな会話	18 (47%)	20 (53%)	38 (27%)
インフォーマルな会話	56 (55%)	46 (45%)	102 (73%)

女性の結果だけを見ると、合計では「フォーマルな会話」の割合の方が高い。単独度の高低で比べると、単独度の低い用法は「フォーマルな会話」に多く、高い用法は「インフォーマルな会話」に多い。ただし単独度の高い用法における「フォーマルな会話」と「インフォーマルな会話」の差はわずかであり、男性と比べてもその差が少ないことから、女性が積極的に「フォーマルな会話」でも単独度の高い用法を用いていると言える。

(4) UF11 「他の語科の先生聞くと、まともだな一って思いますもん、だって。」

UF12 「確かに。」

(初対面と友人同士の女性の雑談 25-2-UF11-UF12)

Labov(1990)や Trudgill(2000)によると標準的で威信的な方向への言語変化は女性が積極的にリードする傾向にあるという。つまり原田(2010)が述べているように「たしかに」が単独度の高い方向へと用法が変化しているとする、「たしかに」の単独用法が威信的な用法であると女性にみなされており、それを女性がリードしている為このような結果になったと考えられる。加えて、女性の会話における特徴も要因として考えられる。中村(2001)は女性同士の会話では話し手の発言を相槌や質問によって積極的に促すことで、話し手の話題の展開に協力していると述べている。さらに女性は参加者同士の連帯やつながりの促進を重視し、そのために会話の情緒的機能を十分に活用した会話方法を用いる。これは女性の協調的会話と呼ばれるようになると述べている。つまり女性は男性よりも同意を重要視し、協調することが必要とされる度合いが高い。そして「たしかに」の単独用法は相手の発話を一旦受け入れる機能を持っている。これらのことから女性がその発話スタイルを反映した「たしかに」の単独用法を用いる割合が高くなっていると考えられる。男性の

結果だけ見ると、合計では「インフォーマルな会話」の割合の方が高く、全体を通して「フォーマルな会話」と「インフォーマルな会話」との差は女性よりも大きい。単独度の高低で比べると、単独度の低い用法も高い用法も「インフォーマルな会話」に多い。これらのことから男性は「インフォーマルな会話」において「たしかに」を多く用いていることがわかる。以下に結果をまとめる。

表 3: 「たしかに」の単独度と性別、ジャンルの関係

	単独度の低い用法	単独度の高い用法
女	フォーマル	インフォーマル+フォーマル
男	インフォーマル	インフォーマル

表 4: 「なるほど」の「フォーマル・インフォーマルな会話」の合計数

女性	単独度 1~2A	単独度 3A~3C	合計
フォーマルな会話	1 (1%)	76 (99%)	77 (65%)
インフォーマルな会話	-	41 (100%)	41 (35%)
男性	単独度 1~2A	単独度 3A~3C	合計
フォーマルな会話	5 (4%)	118(96%)	123(81%)
インフォーマルな会話	-	29(100%)	29 (19%)

女性の結果だけ見ると「なるほど」の使用は「フォーマルな会話」の割合の方が高く、「フォーマルな会話」でも「インフォーマルな会話」でも単独度の高い用法の割合の方が圧倒的に高い。男性も女性と同様の結果を見せており、性差による傾向の違いは見られない。合計を見ると「なるほど」は「フォーマルな会話」を選好することがわかる。

表 5: 「たぶん」の「フォーマル・インフォーマルな会話」の合計数

女性	単独度 1~1A	単独度 3A~3C	合計
フォーマルな会話	127(93%)	9 (7%)	136(32%)
インフォーマルな会話	268(94%)	17 (6%)	285(68%)
男性	単独度 1~2A	単独度 3A~3C	合計
フォーマルな会話	61 (97%)	2 (5%)	63 (28%)
インフォーマルな会話	148(90%)	16 (10%)	164(72%)

女性の結果を見ると、「たぶん」の使用は、合計数において「インフォーマルな会話」の方が高く、「フォーマルな会話」でも「インフォーマルな会話」でも単独度の低い用法の割合の方が圧倒的に高い。男性も同様の結果を見せており、ここでも性差による傾向の違いは見られない。さらに合計数を見るとどちらも「インフォーマルな会話」を選好していることがわかる。三つの陳述副詞を比べると、会話のジャンルと単独度との関係におい

て性差による違いが顕著なのは「たしかに」であることがわかる。これは「たしかに」の用法における「揺れ」を現しているものとみなすことができる。

5. まとめと今後の課題

5.1. まとめ

今回の研究で得られた結果を以下の表にまとめる。

表 6: 全体の傾向

	「なるほど」	「たしかに」	「たぶん」
単独度	高い	中間	低い
修飾の度合い	低い	中間	高い
定型化の度合い	低い	中間	高い
会話のジャンル	フォーマル	両方に渡る	インフォーマル

全体的な傾向として、「なるほど」は単独度が高く、「たぶん」は単独度の低い修飾語としての働きが強いという対極にある。対して「たしかに」には他の二つの陳述副詞には見られない「揺れ」が見られ、他の二つの陳述副詞の中間にあるという図式が目立った。これは「なるほど」が既に陳述副詞から感動詞としての単独用法への変化を遂げているが、「たしかに」はその変化の途中にあるからだと考える。つまり今後「たしかに」は引き続きその単独用法の使用率が高まれば、「なるほど」のように単独用法がより一般的になる可能性もある。表から見て取れるように、単独度、定型化、修飾の度合いにおいても「たしかに」は「なるほど」と「たぶん」の中間に位置していた。さらに修飾方向において「なるほど」のほとんどが前の語を修飾しているのに対して、「たぶん」はほとんどが後ろの語を修飾していた。「たしかに」の修飾方向は前後で半分くらいずつであった。これらは「たしかに」が単独度の高い「なるほど」と単独度の低い「たぶん」の中間にあるためであると考えられる。つまり本来の用法である陳述副詞としての用法から、単独度の高い新たな用法に変化しているということを客観的に示している。さらにどのような層がどのような場面で単独用法を用いているのかという点において、単独度と会話のジャンル、性別との関係を見てきた。その結果「たしかに」は「フォーマル・インフォーマル」どちらでも使われており、単独用法は「インフォーマルな会話」を選好することがわかった。さらに女性が「フォーマルな会話」でも「たしかに」の単独度の高い用法を積極的に用いているということに着目した。これは女性がこの言語変化を先導しているということであり、単独用法の広がり要因として考える。以下に本稿でわかった「たしかに」「なるほど」「たぶん」の分布について図にまとめる。

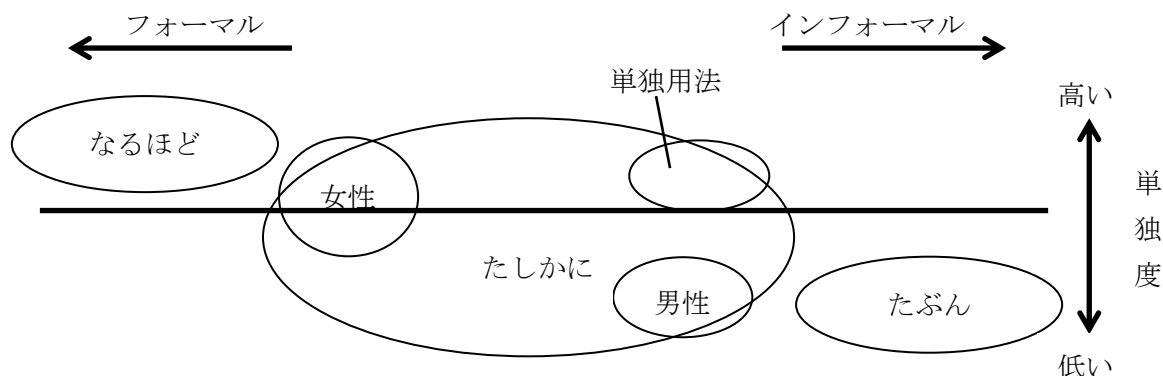


図 2. 「たしかに」「なるほど」「たぶん」の分布

5. 2. 今後の課題

今回は主に『BTSJ コーパス』を用いて調査を行ったが、このコーパスに収録されている会話の話者のほとんどが 20 代の学生であった。このため年齢差による単独度の違いについて調査が行えなかった。これを補うものとして今後は、『JPNCorpus』/『PacRim』における調査データ数を増やし、幅広い年齢層における「たしかに」の単独用法の用いられ方について調査していくことが課題となる。そうすることにより、「たしかに」の用法の変化についてより詳細な分析ができるのではないかと考える。さらに陳述副詞が文構造の外側にあることが単独用法にどう関わるかということに関しては、立証することができなかった。これも今後の課題としたい。

参考文献

- 内田万里子 (1991) 「副詞「たしかに」をめぐって」京都外国語大学編『Cosmica 20』135-146. / 大野文 (1997) 「「たしかに」と「なるほど」大阪外国語大学編『日本語・日本文化研究 第 7 号』155-164. / 竹内美智子 (1973) 「副詞とは何か」鈴木一彦・林巨樹編『品詞別 日本文法講座 5 連体詞・副詞』72-140. 東京：明治書院 / 刀祢睦月 (2013) 「副詞「たしかに」と終助詞」奈良女子大学編『叙説 40』339-332. / 中村桃子 (2001) 『ことばとジェンダー』東京：勁草書房 / 原田幸一 (2010) 「現代東京の話しことばにおける言語形式「たしかに」：大学生による日常会話をデータとして」社会言語科学会編『社会言語学 13 (1)』136-150. / 南不二男(1974)『現代日本語の構造』東京：大修館書店 / _____ (1993)『現代日本語文法の輪郭』東京：大修館書店 / 森本順子 (1994)『日本語研究蔵書 7 話し手の主観を表す副詞について』東京：くろしお出版
- Labov, William (1990) "The intersection of sex and social class in the course of linguistic change," *Language variation and change* 2, 205-254. / Sacks, Harvey, Schegloff, Emanuel A., & Jefferson, Gail. (1974). "A simplest systematics for the organization of turn-taking for conversation." *Language*, 50(4), 696-735. / Trudgill, Peter. (2000). *Sociolinguistics: an introduction to language and society Fourth Edition*, London: Penguin Books.